

リブル



巻頭特集

名古屋経済大学 犬山学研究センター 犬山の総合的な研究を進め、 地域に生かす

スマホを表紙全体にかざして
活動内容を
動画でチェック！



◎特別企画 学び&スポーツ

◎大好評! ○○産秋の味覚スイーツ

◎グルメ特別企画 味覚の秋

地元の求人情報が満載! JIMOJOB シモジョブ

今すぐダウンロード!!

スマートフォンのApp Store®、
またはGoogle Playで「フリモAR」と検索!

表紙がもっと
楽しくなる!!

フリモAR



犬山の総合的な研究を進め、地域に生かす

犬山には歴史、文化、産業、自然の各種遺産が豊富に存在する。
しかし、国宝犬山城のように活用されているものばかりではない。犬山のさまざまな地域資源に目を向け、体系的な「犬山学」として研究していこうと、2017年4月、名古屋経済大学に「犬山学研究センター」が設立された。

最新の研究成果発表など 地域に向けて情報発信

センターの主な活動に「犬山学サロン」がある。大学の教職員、学生、市民を対象に定期開催しており、犬山に関わる第一線の研究者を講師に迎え、最先端の研究成果を紹介する。テーマは多彩で、犬山の魅力を再発見するきっかけの場としても好評と聞く。

犬山とその周辺に分布する太古の地層について、観光資源化の可能性を学ぶ「犬山地層勉強会」も継続して開いてきた。毎回、地層に関する有識者に参加してもらい、検討を重ねている。

中村センター長によれば、犬山の貴重な地層や地形を保全しつつ、地域振興や社会教育に役立つ仕組みを整備した「ジオパーク」に申請する構想も視野に入れているという。地層関連では、今年3月に開かれた県と犬山市共催のイベント「プラアイチ in 犬山」にも協力。木曽川河畔に露頭する堆積岩について、参加者への説明を担当した。

そのほか、犬山市民総合大学と連携し、「一部の講義（犬山学をテーマ）を大学のオープンカレッジとして提供したり、広報誌『犬山学』を発行したりしている。

観光振興や食育に関して 学術的な立場から貢献

センターでは、地域に埋もれた資源を発掘し、観光や教育、産業の発展に寄与すべく、地域への協力を積



博物館明治村の聖ザビエル天主堂で2017年10月21日、「犬山学研究センター設立記念シンポジウム」を開催。当日は「犬山研究の魅力」をテーマとした講演会のほか、犬山学研究センターの役割をテーマにしたパネルディスカッション(写真左上)や、大村秀章愛知県知事、山田拓郎犬山市長も列席したレセプションパーティー(写真右)が開かれた。(写真左下)2018年12月4日、名鉄犬山ホテルで開かれた「犬山学ネットワーク発足記念講演会」。参加機関の関係者など多数が集まり、盛会であった

information

第9回犬山学サロン

2019.11/19 [火] 16:30~18:00

- 場所／名古屋経済大学 6号館6階6F1
- 演題／「小牧・長久手の戦いと内久保砦」
- 講師／金城学院大学非常勤講師 原史彦氏

第10回犬山学サロン

2020.1/7 [火] 16:30~18:00

- 場所／名古屋経済大学
- 演題／「犬山の材木商 神戸家のネットワーク(仮題)」
- 講師／南山大学経済学部 林順子教授



広報誌「犬山学」はこれまで5号発行されている。題字は犬山城白帝文庫理事長の成瀬淳子氏

犬山には多くの歴史物語があり、 アカデミックな立場から実証し、 観光に繋げていくことも犬山学の役割

極的に行ってきた。

「犬山を観光で訪れる人は犬山城、明治村などに集中して、地域全体への広がりが見られません。市内を回遊してもらうには、ストーリーが重要となつてきます。犬山には多くの歴史物語があつて、それらをアカデミックな立場から実証しつつ、観光に繋げていくことも犬山学の役割と考えます」と中村センター長は研究成果の活用例を挙げる。

「昨年度から、体験型学習に新たなプロジェクト「犬山学講座」を開講しました。日本モンキーセンターなど、各機関で行われている研究を实地で体験します。学生はその分野の専門ではないですが、実習の成果報告には、経済や経営を勉強している学生ならではの提案が述べられ、機

関の方から高く評価された場合もあります」と菊池副センター長。

「大学や研究機関が主体であるため、専門的で難しいイメージを抱きがちですが、犬山学は今の生活に関わる研究でもあるのです。たとえば本学管理栄養学科の先生が行っている犬山の食育推進や、市内の喫茶店モーニングの栄養学的な研究なども、犬山学の「環」として行われています」と岡田地域連携センター長が続けた。

犬山を総合的に学ぶ一般教養科目「犬山学入門」は、学生たちに人気という。体験型学習を受講した学生をはじめ、犬山に興味を持ち、卒論のテーマにする学生も毎年少なからず見られるそうで、犬山で活躍する人材の育成に繋がっていきたいとしている。

犬山の地域資源の研究と 産官学の連携を目指す

名古屋経済大学は犬山市にある唯一の大学として、教育・研究活動を通じた地域連携や地域貢献を推し進めてきた。その環で、6年前に地域連携センターを設立するとともに「体験型学習」を開始した。プロジェクトのテーマに従い、学生たちが学外に出て、実際の現場を体験しながら学び、考えるプログラムである。

プロジェクトのひとつ「犬山の観光戦略を考える」を受講した学生が、犬山の地層を観光資源にするアイデアを提案。それが2017年3月15日、愛知県主催の「あいち学生観光まちづくりアワード」の優秀賞を獲得した。世界的に貴重な地層にも関わらず、ほとんど注目されてこなかった犬山の自然遺産に光を当てたのだ。



木曽川河畔には、美しい層状チャート(堆積岩の一種)が露頭している。地質年代は三畳紀〜ジュラ紀という



犬山の地層を観光資源化するアイデア「ジオラマチック in 愛知」で、「あいち学生観光まちづくりアワード」の優秀賞を受賞した経営学部1年(当時)の坪井真実子さん

「改めて犬山の地域資源の豊富さに触れ、また教育に与える効果も大きいことから、これを機会に、犬山を体系的に研究するセンターを作ったのです」と犬山学研究センター長の中村真咲教授は設立の経緯を話す。
「犬山学」を学際的な研究としていくためには、センターの一研究機関だけで地域資源の発掘・活用に取り組むのではなく、犬山に点在する学術機関、NPO、市民団体、企業との連携が必要であると、2018年に「犬山学ネットワーク」を発足した。

「それぞれが個別で犬山に関わる研究をしています、横のネットワークがありませんでした。そこで情報交換や課題を共有するプラットフォームの構築を提案したところ、賛同を得たのです。現在、14機関と覚書を交換しています」と中村センター長。



愛知県と犬山市共催の街歩きイベント「プラアイチ in 犬山」の名経大ブース。放散虫化石が含まれる堆積岩の標本を見もらいながら、犬山固有の地質を説明した